

石川県全域を対象とした図書館による農業支援事業案

松尾 萌咲(石川県立図書館)

1 石川県立図書館の概要

石川県立図書館は、2022年7月に金沢市小立野へ移転開館した。金沢市の中心街近くの旧館では、建物の老朽化、書庫の狭隘化、駐車場の不足、耐震性の不足など様々な問題を抱えていたが、新館移転後は、開架冊数約30万冊・書庫収蔵能力約200万冊・駐車台数約400台を備えた大規模図書館へと生まれ変わった。開放感ある吹き抜けの閲覧スペースは、金沢の伝統色(加賀五彩)でゾーン分けされて見栄え良く、観光目的での来館者も多く見られるようになった。円形閲覧空間「グレートホール」の本棚は、館独自の12のテーマ「本と出会う12のテーマ」によるテーマ別排架となっており、中央部分の「企画展示コーナー」では、外部の団体との連携のもと企画展が年3回行われている。また、大型スクリーンを備えた「だんだん広場」、調理体験のできる「食文化体験スペース」、3Dプリンタやレーザーカッターなどが使える「モノづくり体験スペース」、収穫体験のできる畑や果樹を備えた「おはなしの森」など多種多様なイベントに対応できるスペースも備えている。

2 石川県における伝統的農業の危機 ※2024年3月時点

「石川県成長戦略」¹で言及されている通り、元々石川県では農村漁村の過疎化や高齢化が進んでおり、農林水産業は担い手不足に苦しんでいた。そこに追い打ちをかけるように令和6(2024)年能登半島地震によって能登地方は甚大な被害を受けた。地震により、家屋の倒壊や道路の亀裂や陥没、液状化、地盤の隆起、土砂崩れ、断水など、日常生活を送ることすらままならない状況に追い込まれた県民が多数おり、被害の全容も未だ把握しきれていない。地震から2か月以上が経過した3月8日時点で自治体の運営する避難所に避難している人だけでも1万人近く²、身内を頼ってなど避難所を利用していない人も加えるとさらに多くの県民が、住み慣れた土地を離れ避難生活を送っており、現地に留まる県民もインフラの崩壊した中での生活を余儀なくされている。その結果、農業を含む各地の伝統的な産業の存続も危ぶまれている。

一方で、県庁所在地金沢市を含む県南部は物理的な被害は小さく、地震前とほぼ変わらない状況にあるが、風評被害もあり観光業を中心に大きな打撃を受けた。「いしかわ応援旅行割」キャンペーン³の実施などで、観光客数の回復が期待されている。

地震による被害を受けて、馳知事は農林水産業の創造的復興という目標を示した⁴。これは復旧支援に加え、大区画化、スマート農業による効率化、農地集約を行い、地震前からの課題である高齢化や生産者の減少の解決を図るものである。国や関連団体との連携も検討されている。

3 石川県立図書館による農業支援の可能性と課題

県立図書館では、移転開館以降、多種多様な企画展やイベントが開催されており、ファッション

ショーや麻雀教室、ストリートピアノの設置など、一般的な図書館のイメージを超えた企画力が強みの一つである。また、人と自然が織りなす生物文化多様性を守り伝えるための資料を収集したテーマ別排架「里の恵み・文化の香り～石川コレクション～」をはじめ、農業分野に関する資料も豊富に所蔵している。資料で調べられるだけでなく、館内にある「おはなしの森」の畑で実際に作物を育てられるというのも、他館にはない強みである。

ビジネス・ライブラリアン講習会を受講して、最も印象に残ったのは、「図書館におけるビジネス支援においては、自治体内での協力体制や他団体との連携が必須である」という点である。たとえ豊富な資料に支えられていても、図書館は各分野の専門家ではなく、独力で行う支援には限界があるが、専門の団体などと積極的に連携を進めていくことで、点で存在していた図書館の支援と連携先の支援の間に明確な道筋ができ、図書館の支援の方向性も連携先の事業を踏まえた具体的かつ有益なものになる。また、連携先にも図書館の有用性を認知してもらうことで、支援対象者へ図書館を紹介してもらうことも期待できる。

自治体の出先機関である公共図書館は、司書の異動が大抵の場合図書館内で完結することもあり、本庁の他の部や課とのつながりが薄い場合が多いが、同じ自治体職員として協力体制を築きやすい。また、連携先を広げていく場合にも、自治体内の担当課の助言は大いに参考になると考えられるため、将来的なことを考えても、前向きに相談に乗ってもらえるような良好な関係作りは最優先で行っていく必要がある。このような本庁や外部機関との連携については、県立図書館では積極的に取り組んでおり強みにもなっているが、自館内の取り組みにとどまることが多く、それを県内全域にどのように広げてゆくかが課題となっている。

4 農業支援案の概要

以上を踏まえ、県の伝統的な農業を途絶えさせないよう、まずは県民全体に各地域の特産品をPRし、農業に興味を持ち魅力を知ってもらうことを目的として、県立図書館を起点に県内市町立図書館を巡回する事業を提案する。最終的には、巡回により得られた成果物を県立図書館に集合させ、大規模な企画展と関連イベントを通して紹介することで、県民だけでなく、県外からの観光客に向けてのPRも行っていく。

連携先は石川県の農林水産部、各市町の図書館と農林水産担当部局、就農支援を行う県所管の公益財団法人「いしかわ農業総合支援機構」(以下、「INATO」)が候補となる。県だけでなく各市町の農林水産部局を巻き込むことで、各地で特に宣伝したい作物をピックアップすることができる。また、県全体を支援するにあたっては、各市町立図書館も自治体の内外問わず連携し、自ら動いていけるようになることが望ましい。当事業を通して、各市町の農林水産部局やINATOと図書館との間につながりが生まれ、独自の動きが生まれることを期待したい。

なお、2章で言及した大区画化やスマート農業については、復興が進み、ある程度土地が整備されてから、多額の初期投資が可能な企業などを相手に進めていくことが予想されるため、現時点で図書館としてできることは少ないが、本事業を通じて県内の農業を盛り上げていくことが、間

接的な支援になると考えられる。

5 具体的な取り組み

5.1 石川県立図書館における取り組み

県立図書館においては、最初に以下の3つの取り組みを行う。

- ① 県内農産物を紹介するパネルと関連資料の展示
- ② 県内就農者の講演会と講師の製品の試食会
- ③ 畑での簡易農業体験および収穫した野菜の調理体験(子ども向け)

これらの取り組みのうち、①については市町立図書館に巡回展示としてそのまま送ることを想定し、展示資料はすべて複本を購入する。パネルでは、「金沢市の金時草」「七尾市の沢野ごぼう」などの藩政期より伝わる野菜から平成に入って新たに誕生した「ルビーロマン」まで、バラエティ豊かな県内の特産品を取り上げる。生産の過程だけでなく、例えば「米」ならばそこから生み出される「酒」も紹介するなど、関連商品なども含めた幅広い内容のものとする。

②の講演会については、魅力を伝えるという目的が前提にあるため、単純に生産について語るだけでなく、農業が盛んになることで生まれるメリットなどにも言及できるような講師を農林水産部や INATO に推薦してもらう。また、講演の際には、県で受けられる助成金などのシステムについて簡単な説明や、INATO で行っている初心者向けの就農教室の紹介なども併せて行うものとする。試食会も同時に行うことで、講演内容がより説得力のあるものになり、参加者の印象に残ると考えられる。

大人だけでなく、将来を担う子どもたちにも農業の魅力をアピールするため、図書館の畑で元々行っていた収穫体験を強化する形で、植え付けから施肥などの作業も体験できるようにする。収穫した作物を使った調理教室も開催し、食育につなげていく。③については、一度で終わらせず継続して行っていく。

5.2 市町立図書館における取り組み

地震の被害状況を鑑みるに、能登地方ですぐに実施するのは難しいため、まずは加賀地方の図書館から開始し、復興の状況を見ながら最終的には能登地方でも実施する。

実施する内容は以下の通り。

- ① 県立図書館制作の巡回展示に現地の館が制作したパネルと関連資料を追加した展示
- ② 現地就農者の講演会と講師の製品の試食会

県立図書館の展示をそのまま使うのではなく、より地元のことを理解しているそれぞれの館が独自に展示内容を追加することで、さらに中身の濃い展示を行うことができる。展示物の中に、県立図書館が所蔵していない自治体作成のパンフレット等があれば収集させてもらい、郷土資料として受け入れすることもできる。

②の講演会などの基本的な流れは、県立図書館で行った時と同様のものを想定しているが、

取り上げる作物や講師の選定などは各市町の農林水産部局の希望に添ったものとする。知名度はまだ低くとも良い作物があれば積極的に紹介してもらおう。当事業においては県側が主、市町側が補助の形となるが、今後の取り組みにつながるよう、積極的な連携を働きかけていくことが重要である。

5.3 その後の展開案

一通り県内図書館を巡り終えたら、再び県立図書館に戻り、企画展として、さらに規模の大きな展示を行う。事業の成果物として、巡回展示の際に各市町立図書館で制作されたパネルを集め、一つの展示としてまとめ直すことで、県内各地で積極的に推していきたいと考えられている作物を確実に紹介することができる。各パネルに添える展示資料についても、各市町立図書館で選定されたものが大いに参考になる。

企画展の関連イベントとして、紹介された作物を実際に購入できるマルシェや、おいしく食べるための料理教室の開催など、イベントスペースが充実した県立図書館でしかできない取り組みを積極的に行っていく。

農業を盛り上げていくには、県外に向けての発信も必須だが、見栄えの良い建築の効果もあり、観光客が多数訪れる施設でもあるため、その部分にも対応できる。豊かな自然による食の魅力を県外者にもアピールすることで、消費の拡大や移住の後押しにつなげたい。図書館が観光地化していることについては、否定的な意見もあるが、今回のように観光客にもアピールがしたい場合は、その特徴が強力な武器になるため、現在の県立図書館のあり方について理解してもらおう上でもメリットがあるといえる。

なお、今回の一連の事業を実際に行う場合は、主に農林水産部についた予算で動いていく形になる可能性が高いため、先方との交渉の努力が必要である。また、県立図書館側としては、巡回展示を行う都合上、展示資料用の資料費は追加で確保する必要がある。

6 おわりに

ビジネス・ライブラリアン講習会を一通り受講し終えて、今改めて振り返ってみると、どの講義も内容が非常に充実しており、実りある時間だったと感じる。1月からは震災の影響で慌ただしくはあったが、一方でそういった状況だからこそ、より真剣にこれからの県のことを考えながら、講義や課題に取り組めたとも感じている。今回受講して学んだことを、今後の業務にしっかりと活かし、地元の復興のため努力していきたい。

¹ 石川県成長戦略

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kikaku/keikaku/documents/ishikawakenseichosenryaku_syousai.pdf

² 被害等の状況について（第 106 報）【2024 年 3 月 8 日 14 時 00 分現在】

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/documents/higaihou_106_0308_1400.pdf

³ 北陸応援割「いしかわ応援旅行割」（第一弾）について

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/yukyaku/hokurikuouenwari.html>

⁴ 知事記者会見（令和 6 年 1 月 15 日）

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/chiji/kisya/r6_1_15/1.html